

あなたは知っていますか？

激動の第二次世界大戦下。外交官として赴任していたリトアニアで、ナチスの迫害から逃れてきたユダヤ難民に、日本通過ヴィザを発給し6000人も命を救った1人の日本人がいたことを——その男の名は、杉原千畝。

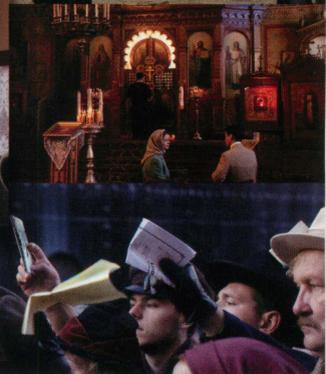
彼は、英語、露語、独語、仏語など数カ国語を操るインテリジェンス・オフィサー（諜報外交官）として、満州、フィンランド、リトアニア、ドイツ、チェコ、ルーマニアなど様々な国に滞在。身の危険を冒しながら、混沌とする世界情勢の情報を集め、日本に発信し続けた。そのため、当時のソ連から警戒され【ペルソナ・ノン・グラータ*（歓迎されざる人物）】に指定された日本初の外交官でもあった。

混乱の世界情勢下で彼はなぜ、自分だけでなく家族までもが危険に晒される諜報戦に身を投じ、政府の許可を待たず独断でユダヤ難民にヴィザを発行し続けたのか。終戦から70年の節目となる2015年、映画『杉原千畝 スギハラチウネ』でその決意の裏に秘められた感動の真実が明らかになる！

戦後70年の時を経て、“真実の物語”が感動超大作としてスクリーンに甦る！

※【ペルソナ・ノン・グラータ（歓迎されざる人物）】とは

外交用語の一つ。ラテン語の直訳で「好ましからぬ人物」の意から転じて、「歓迎されざる人物」という意味で使用される。1937年、当時のソ連は在モスクワ大使館赴任予定だった杉原千畝に、ソ連に反発するロシア人と親交があるという理由で【ペルソナ・ノン・グラータ】を発動し入国を拒否した。日本政府は国際慣例上先例なきことと抗議するも実らず、千畝のリトアニア赴任への契機となった。



12月5日(土) ROADSHOW

劇場内での映画の
撮影・録音は犯罪です。
著作権 © 2015 東宝映画株式会社
www.oshikiri.org
0120-550098